

令和5年度事業報告

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

【概況】

当法人は、昭和39年1月の創設以来、日本の文学・哲学・教育・美術等の各分野に多大な影響を与え、東洋の精神文化の基幹をなしてきた禅及び禅文化を、総合的に研究し、その成果を普及して、広く世界の人類文化に貢献する事業を展開してきた。本年度も禅文化の普及に努め以下の活動を行った。

調査研究活動では、中国禅宗史・禅語録研究班は通常開催となった。

資料収集・資料公開活動では、令和4年5月に開設した「禅文化財 COLLECTION」サイトでは、当法人の所蔵墨蹟や調査を行った平林寺の絵画・墨蹟等をアップした。寺宝調査活動は、整理が終了した3ヶ寺のデータの納品を行った。「蔵書 SEARCH」サイトでは、当法人が有する和漢古書のデジタル化を進め、順次オンライン公開している。特別展覧会は、「自性寺」展を開催した。

4年ぶりとなる東西霊性交流は、欧州より4名の修道士（女）らを迎え実施した。

広報・普及活動では、公開講演会やサンガセミナー等を開催したほか、SNSを利用して禅文化の普及に努めた。書籍等の刊行については、『季刊 禅文化』をはじめ、『2024年禅語こよみ』などを刊行した。

収益事業では、宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売やサポート、臨済宗や他宗派の宗務所管理システムの機能追加への対応や保守サービスなどを行った。

共益事業では、臨黄合議所関連の業務をはじめ各派宗務本所や寺院からの委託出版などを行った。

－目次－

I. 禅文化普及事業（公益目的事業）

〈1〉 調査・研究活動	2
〈2〉 資料収集・資料公開活動	4
〈3〉 広報・普及活動	5

II. 収益・共益等事業

〈1〉 ソフト開発・販売等事業	8
〈2〉 共益事業	9

財務諸表	10～20
------	-------

I. 禅文化普及事業(公益目的事業)

〈1〉調査・研究活動

1. 中国禅宗史・禅語録研究班

※各研究会の概要は7頁に記載。

① 唐代語録『祖堂集』研究会〔班長 西口芳男〕

今年度は卷十三招慶和尚章(全四十八則)の第四十七則・第四十八則、報慈和尚章(全三十四則)の第一則より第三十則までの三十二則を読み進めた。開催日は、2023年4/14、4/28、5/26、6/23、7/14、9/22、10/13、10/27、11/10、11/24、12/8、12/22、2024年1/12、2/9、3/8。

また、『禅文化研究所紀要』第37号(2024年5月)に『祖堂集』卷一〇譯注(五)「長慶和尚章」を発表した。

講師：衣川賢次

参加者：川島常明(大通院住職)／松岡由香子(山水庵庵主)／久保讓／鈴木洋保(花園大学非常勤講師)／鈴木史己(南山大学講師)／土屋昌明(専修大学教授)／藤田和敏(相国寺寺史編纂室研究員)／王珂(花園大学博士課程、中国留学生)／葛研(花園大学博士課程、中国留学生)／宋力(花園大学博士課程、中国留学生)

② 「神会語録」研究会〔班長 西口芳男〕

今年度は休会した。

③ 「景德伝灯録」研究会〔班長 西口芳男〕

今年度より再開。

卷一七・羅山道閑禅師(つづき)／福州香溪從範禅師／福州羅源聖壽嚴和尚／安州白兆山竺乾院志圓／襄州鷲嶺善本禅師／潭州谷山有縁禅師／潭州龍興和尚(第一世住)／京兆白雲善藏禅師／潭州龍興和尚(第二世住)／陝府龍峻山和尚／潭州龍興和尚(第三世住)／新羅清院和尚／洪州泐潭寶峰神黨禅師までを読み進めた。

開催日は、2023年5/28、7/30、9/17、2024年1/8、3/22。

参加者：衣川賢次／三浦國雄(大阪市名誉教授)／下定雅弘(岡山大学名誉教授)／中西久味(新潟大学名誉教授)／松岡由香子(山水庵庵主)／高倩藝(名古屋大学文学研究科修了)／久保讓

④ 俗語言研究会〔担当 衣川賢次・西口芳男〕

平成5年～10年にかけて、日中の中国語学研究者に呼びかけて刊行した雑誌『俗語言研究』を中国四川大学が主(経費負担を含む)となって復刊する。禅宗研究の推進を目標とし、禅宗の言語、禅宗の歴史と思想、禅宗文献の研究を主題とする論文、書評等を掲載する。日本側は監修として参画。『俗語言研究』第七號(復刊第二號)の発刊は三年ほど遅れている。

2. 禅宗經典研究班

禅文献に関わる經典類のうち、これまで未開のものについて独自の研究を進めると共に、臨済宗で常用される經典についても、現代に即した内容や形態は何かを究明し、一般に普及する方策を考える。今年度は活動なし。

3. 日本禅宗史・禅語録研究班

日本の伝統教団を形成した祖師たちの伝記や語録を体系的に整備し、現代的に解釈することを目的とする。班員は所員を中心としたメンバーで構成する。

① 江湖開山等語録研究〔担当 能仁晃道・藤田琢司〕

臨済宗各派寺院の協力により、開山・中興開山等が残した語録類を整理し、訓注を行う。本山以外の寺院に残る語録類の訓注は、殆どなされておらず、日本禅宗史上重要なものが多い。

今年度は、仙台伊達家の歴史書である『伊達出自世次考』『伊達正統世次考』の翻刻と訓読を終了した。

② 『延宝伝灯録』研究〔担当 藤田琢司〕

江戸時代前期に卍元師蛮が撰述した『延宝伝灯録』の訓注作業を行う。本書は日本の禅僧・居士ら約千人の伝記および機縁語句などを録したもので、江戸時代までの日本禅僧の伝記の集大成として位置づけることができる。しかし全四十巻という大部に加え、難解な禅語の知識が不可欠であったためか、従来訓読等が刊行されたことはなかった。昨年度は諸事情から作業を休止したが、各方面から刊行を望む声が寄せられたため、今年度から作業を再開した。

4. マルチメディア研究班

印刷物をはじめ、音声、映像、ホームページなど、多様なメディアを通して現代人に禅をわかりやすく伝える方策を研究する。令和5年度には、禅のこころを生かしたミニ・カレンダーである「2024年禅語こよみ」（辰年記念－禅寺の龍図－）を刊行したほか、DVD 禅僧が語るシリーズとして、山川宗玄老師の「花が咲く」の制作を行った。

また、花園大学仏教学科と『宗学概論』改訂版の編集作業を進めた。

5. 人材の発掘及び研究発表の場の提供

禅に関わる人材発掘・育成に繋げるため、臨黄各派の専門道場師家が集まる「師家の集い」を令和6年3月7日に京都市内のホテルで開催した。全国20僧堂の師家が出席した。

〈2〉資料収集・資料公開活動

1. デジタルアーカイブス

臨済宗・黄檗宗寺院において大切に遺されてきた禅仏教や寺院に関する文化財を、デジタル化して広く国内外に紹介する事業。令和4年5月に「禅文化財 COLLECTION」サイトを開設、文化財のデジタル画像は、高精細な画像ビューアで見ることができる。

① デジタルアーカイブス（禅文化財目録整備事業）

公開中の「禅文化財 COLLECTION」サイトに、当法人が有する学術資源を順次追加したほか、これまで調査を実施した寺院の中から、平林寺（埼玉県新座市）所蔵の作品169件を公開した。オンライン公開の作品は309点（令和6年度3月現在）。年間のユーザー数（訪問者数）は2,009、ページビュー数（閲覧数）は12,125。

② 寺宝調査活動

これまでに請け負った調査のデータ化と整理を行った。令和5年度は、大本山方広寺（静岡）、自性寺（大分）、正受庵（長野）のデータ化が終了し納品を行った。残りは瓦屋寺・円福寺・玉林院・見性寺となっている。

2. 資料の収集・整理・公開等

① 資料室所蔵品の整理・公開（利用）

当法人がこれまで収集してきた文献資料と新たな購入や寄贈を受けた図書の整理を行った。蔵書には、他の図書館や資料館にはない貴重なものが含まれており、これらの閲覧も、従来通り内外の研究者や禅に関心のある一般人に無料で開放した。

所蔵図書のオンライン検索については、データ整理及びシステム開発を進め、令和5年4月に一般図書を対象とした「蔵書 SEARCH」サイトを開設した（現在の検索可能点数は11,126点）。また、それに合わせて、当法人が有する和漢古書をデジタル化してオンライン公開し、利用の便を向上させた（現在の閲覧可能点数は443点）。年間のユーザー数（訪問者数）は3,832、ページビュー数（閲覧数）は15,265。

「特別展覧会」（花園大学歴史博物館と共催）

デジタルアーカイブス事業の成果として、禅宗寺院及び当法人が所蔵する書画を一般公開し、美術に関する講演を行う墨蹟展を花園大学歴史博物館と共同で開催する。

今年度は、「自性寺」展を、令和5年5月15日から7月8日まで開催した。

③ 黒豆データベース公開事業

当法人がこれまで電子テキスト化してきた禅宗文献のうち、訓注本として発刊してきたものの原文データベースを、簡易検索システムと共にホームページ上で一般に無償公開中で、随時、データファイルを追加する。今年度の追加登録はなし。

④ 問い合わせに関する回答

資料の出典や解説等について、寺院・団体・個人を問わず様々な問い合わせが数多く寄せられる。それらの回答に無料で応じた。文書で行った回答には以下のような質問が寄せられた。

平安山仏心寺の所在について（個人）／臨済宗の教学について（個人）／「禅道法話集」の公開について／山田無文老師の著作について（個人）／「道歌百人一首心の策」の歌意について（個人）／一休『つづの字問答』の原典について（NHK）／禅宗の声明について（個人）／大森禅戒禅師について（個人）／「塗毒鼓」について（個人）等
墨蹟の読みについては賛助会員は無償で行い、それ以外は回答の際に入会を依頼している。

〈3〉広報・普及活動

1. 季刊『禅文化』の刊行

季刊『禅文化』は、禅の思想と生活及び文化・美術などに興味を持つ読者のための教養誌として刊行を続けている。今年度は以下の号数を発行した。

- 268号 特集「不生の聖 盤珪」
- 269号 特集「無外如大生誕 800年 禅の尼僧」
- 270号 特集「柴山全慶老師 50回忌」
- 271号 特集「高台寺・信仰と美」

主な配布先は寺院、一般など。購読会員数 1,051 名。

なお、243号より花園会館と南禅会館の客室に常備いただいている。

2. 研究成果の刊行

○日本禅宗史・禅語録の成果

- ①『慈雲尊者提唱『金剛経』の真髓』 小金丸泰仙（令和5年11月刊行）
初版 300部・重版 200部 売上 314部 159万円。
江戸時代の学僧、慈雲尊者による『金剛経』の注釈本。

○マルチメディア研究班の成果

- ①2024年禅語こよみ 辰年記念－禅寺の龍図－（令和5年9月刊行）
初版 43,500部 売上 41,383部 1.384万円。前年比＋300万円
禅のこころを生かしたミニ・カレンダー。

○重版

- ①『新・坐禅のすすめ』2刷 1500部
- ②『檀信徒経典CD』3刷 1000部

3. ホームページの運営とコンテンツの更新

- ① 禅文化研究所ホームページの運営とコンテンツの更新

令和6年5月公開に向けてサイトリニューアルの作業を進めた。ホームページの制作およびECサイトの構築は、複数の業者を検討した中で、株式会社あんどぷらす（静岡市）に決定した。この事業は国のIT事業支援により、制作費（税抜）の2/3の補助を受ける。また、コンテンツ更新および連動している臨黄ネット御用達市場にある「禅文化研究所オンラインショップ」の商品登録などを行った。

ホームページの年間のユーザー数（訪問者数）は49,738、ページビュー数（閲覧数）は138,763。

② 臨黄寺院ネットワークの運用協力

臨済禅を世界に発信する公式サイトである臨黄ネットの情報更新及びコンテンツ制作を行ったほか、サイトリニューアルに向けての作業を進めた。

4. 公開講演会等

① 公開講演会

「自性寺」展にあわせて以下の公開講演会を開催した。

令和5年6月6日 「白隠禅師と提洲和尚」

芳澤勝弘氏（花園大学国際禅学研究所顧問）

② 東京禅文化講演会

大岡記念財団との共催で11月16日（木）18時より日本工業倶楽部会館（丸の内）で実施。講演と実習（坐禅）を通してストレス社会を生き抜く対処法を学び、禅の精神に触れてもらう内容で講師は松竹寛山老師。有料参加者は155名。

③ 教化・運営の実践講座（サンガセミナー）

寺院の公益性が求められるなか、僧侶も一般の方も一緒になって学ぶ場として開講。令和5年度は以下の講座を開催した。

- ・禅修行ははじめの一步 ～坐禅と基本動作を通して禅定を深める～

10/4 11/15 12/20 講師：松竹寛山老師 受講者合計18名

- ・江湖法式梵唄抄 基本所作講座 11/24 講師：吹田良忠師 受講者6名

- ・九龍図にふれる～龍安寺特別拝観～ 1/13 受講者16名

- ・漢詩作成の基本を学ぶ 1/22 2/19 講師：平兮正道師 受講者各10名

④ 花園大学サテライト講座『禅とところ』

国際禅学研究所・妙心寺派教化センター・日本経済新聞社と共催で3回の講座を実施した。

1月27日 講師：柳幹康氏／横田南嶺老師 参加者 87名

2月17日 講師：飯島孝良氏／秦美香子氏 ” 50名

3月16日 講師：小川隆氏／佐々木閑氏 ” 92名

5. 広報・普及

研究所の各種事業や刊行物の案内を、ダイレクトメールをはじめ、ブログ、メールマガジンの発行、SNS などを利用して広範囲に普及した。また所長による youtube の配信を開始し、出版物や各事業の広報を行っている。

【ダイレクトメール】令和5年9月28日発送 6,727 通（臨黄寺院・顧客）

注文件数 473 回収率 6.5% 売上 449 万 8 千円（経費 70 万 3 千円）

【メールマガジン】12 回配信（VOL 95～106）現在の登録者数 2,296

【SNS】X（旧 Twitter）フォロワー 1484 人／Instagram フォロワー 509 人

Facebook フォロワー 2,066 人

【youtube】チャンネル登録者数 1,190 人（2023 年 10 月より 14 本アップ）

現在、売店等で頒布を依頼している本山・寺院は以下の通り（業者委託分含む）。
妙心寺（花園会館）／建長寺／方広寺／永源寺／天龍寺／建仁寺／佛通寺／龍安寺（妙心）／鹿苑寺（相国）／神勝寺（広島・建仁）／東慶寺（鎌倉・円覚）／東京国立博物館／湯木美術館（大阪）

6. 第 16 回東西靈性交流（花園大学と共催）

禅僧とカトリック修道士との修行体験による交流を通して、禅とキリスト教の相互理解を深める東西靈性交流を 9/21 から 10/5 まで国内で実施した。ヨーロッパから 4 名の修道士・修道女が参加。正眼僧堂・天龍僧堂・愛知尼僧堂などで修行を体験し、花園大学で報告会を行った。

※中国禅宗史・禅語録研究班の概要

当法人は、設立以来語録研究班を組織し、禅文献のうち最重要とされる中国唐宋代の禅語録を継続して会読している。これらは禅の語録を、唐代・宋代の中国語の口語研究を踏まえ、語彙や文体の変遷と思想史の脈絡にしたがって読解してゆくものである。その成果は、唐宋の思想史解明に新たな観点を提供するものとなり、また、唐宋の口語研究に寄与するものとなる。

参加メンバーは仏教学、哲学、文学、中国語学などの研究者や学生、一般からの参加者などで構成され、学際的な雰囲気の中で研究が行われている。

①唐代語録（『祖堂集』）研究会

『祖堂集』は『景德伝灯録』の編集に先立つこと 52 年、完存する禅宗灯史の書としては現存最古のものであり、現代の禅に直結する唐五代の禅の資料の古層をなすものとして貴重である。北宋初期の当時の最高の知識人の刊削裁定を経た『伝灯録』に比べて、野趣に富んだ生の資料を提供してくれるものであり、口語研究の資料としても、近年、

とみに注目を集めている。既に 50 年前、この研究班では、入矢義高・柳田聖山の指導のもとに読まれ、当時の原稿によって『訓注祖堂集』（国際禅学研究所報告第 8 冊、2003 年）として当時の成果が発表されている。今回は『祖堂集』を成立させた福州の雪峰教団の禅師をメインにして深く読み進め、『祖堂集』成立の背景を探ることを目的とする。

②「神会語録」研究会

敦煌写本禅宗文献の中で最も重要なものの一つに神会関係のものがある。神会の語録の校訂本には、つとに、胡適氏、鈴木大拙氏のものがあるが、敦煌博物館本やいくつかの断片写本が出揃うと、従来の校定には限界のあることがわかり、新たな定本、正確な訳文、詳細な注釈の作成が待たれていた。本会ではこの点を重視した読解を進めてゆく。

③「景德伝灯録」研究会

禅語録中、最も基本的かつ重要な文献である『伝灯録』全 30 巻を、近年の日中両国の中国口語史研究の成果を踏まえて、千八百の古則公案といわれる問答の一つ一つの意味を解明することに重点を置き読解を進めている。

Ⅱ．収益・共益等事業

〈1〉ソフト開発・販売等事業

1. 宗教法人管理システム「擔雪Ⅱ」の販売

「財務管理」「法務管理」「会費管理」「寄付金管理」の各システムを発売中。宗門を中心に仏教諸宗への販売促進。DM（ダイレクトメール）やネット上の広告等を行った。「擔雪Ⅲ」は、開発やサポート体制について人員及び経費の目処が立たず開発を中止した。

2. オーダー型管理システムの構築

以下の構築済みシステムの機能追加や運用をサポートした。

東福寺派管理システム

南禅寺派管理システム

建長寺派管理システム

曹洞宗宗務所管理システム

天龍寺派管理システム

妙心寺派布教師会管理システム

佛通寺派管理システム

真言宗管理システム

青蓮院管理システム

永保寺墓地管理システム

藏春寺霊園管理システム

妙心寺派白隠さんの会

3. 出版物頒布

他社から委託を受けた禅関係の出版物をホームページやDMなどで案内し頒布した。

主な取扱い品：「日本の心 日暦」・「茶禅一如 日暦」・「干支色紙」（以上千真工芸）、
「見てわかる仏事」（臨済宗青年僧の会）、「送喪儀」（連合各派布教師会）、「DVD 心の時代」（NHK出版）等。

〈2〉共益事業

1. 臨黄合議所事務局

○ 年間会議

令和5年4月11日（火）理事会（黄檗宗務本院）

令和5年9月6日（水）理事会（黄檗宗務本院）

令和5年10月10日（火）移動理事会（永源寺）

令和6年1月18日（木）理事会（京都市内ホテル）

教学部長会は1回開催

臨済宗黄檗宗宗勢調査員会は11回開催

○ 「臨済宗黄檗宗宗勢調査」中間報告書の発行

○ 第18回臨黄教化研究会（令和6年2月1日・2日）

○ 「臨黄会報」の発行（59号・60号）

○ 臨黄互助会の促進

○ 会議等の事務処理

2. 寺院委託出版等

『恵林寺歴代住職頂相集』恵林寺（山梨県）／令和5年4月刊行

その他、以下の訓読及び編集業務を行った。

『梅天禅師法語』正法寺（大阪府）／令和7年4月刊行

『伊達家の歴史』満勝寺（宮城県）／未定（令和7年度以降）